

南第四小学校の教育

～わくわくする学校をめざして～

第四小学校という名前がつく町田市の公立小学校は3校あり、よく間違えられます。そこで本校は、「ナンシーちゃん」というイメージキャラクターをつくっています。「ナン」は「南」、「シー」は第四の「四」です。教育目標の「明るく、元気な子」もアピールしています。わくわくする学校をめざした現在の特色は、次の4点です。

(1) 教育環境の整備

昨年10月に芝生化の工事が完了し、育成期間を終え、子どもたちは芝生の上で、元気に遊んだり、運動したりしています。



▲なまず池

毎日、しっかりと世話をしています。また、今年度は、新たに「かぶとむし小屋」を設置しました。

(4) ホームページによる教育活動の発信

リアルタイムを基本方針にして、ホームページを更新しています。1日に180件前後のアクセスがあります。

(2) 全国学校体育研究大会発表校

東京で33年ぶりに開催される全国学校体育研究発表大会の陸上運動領域系の研究発表校です。11月15日(金)の研究発表に向け、研究を重ねています。

(3) 飼育活動の取り組み

くじゃく、うさぎ、にわとりを飼育しています。高学年の飼育当番が



▲研究授業の様子(6年生)



▲ナンシーちゃん

鶴川第三小学校の教育

～鶴二小の歌声、自然、読書、食育、これから～

【歌声】「この坂道登ったらほくの学校があります…青空に抱かれたほくの自慢の学校、この坂道をほくは毎朝風をきってかけます」(学校坂道の歌詞より)30年以上続くPTA花壇に沿って「がんばり坂」を登ると鶴川第二小学校があります。

毎朝、NHK全国学校音楽コンクールで輝かしい実績を誇る鶴二小合唱団の歌声の中、子どもたちが元気に登校してきます。集会や行事で全児童の美しい歌声が響き、その歌声が学校の雰囲気をつくっています。



▲ゲストティーチャーによるカブトムシ授業(3年)

【読書】図書室は、時季に応じた掲示やレイアウトが工夫された図書室の環境、保護者の図書ボランティアによる読み聞かせや整備活動も充実し、読書力の向上につながっています。

【食育】食育推進校として、市内唯一の栄養教諭による食育授業や、毎月行われる異学年児童での誕生会給食、そして毎日の給食のおいしさも自慢の特色です。

国立教育政策研究所と町田市教育委員会の指定校として、論理的思考力について研究し、2月に研究発表します。来年度50周年記念行事と大きな節目を迎え、これからも鶴二小は、保護者や地域の皆さんと共に進みます。



▲合唱コンクールで活躍する鶴二小合唱団

【自然】広い敷地には、流れる水路を併設したピオトープや水田、野鳥園、カブトムシ園など、里山の面影を残した学習環境を整備し、3年生全員がカブトムシ飼育に取り組みます。また、毎月の「鶴二自然クラブ」(おやじの会共催)では環境学習に取り組みます。

【読書】図書室は、時季に応じた掲示やレイアウトが工夫された図書室の環境、保護者の図書ボランティアによる読み聞かせや整備活動も充実し、読書力の向上につながっています。



▲レイアウトや掲示を工夫した図書室



わがまち学校たんけん隊!

忠生小学校の教育

～くすの木に見守られて102年～

忠生小学校は、本年度開校102年を迎えた、歴史と伝統のある学校です。現在、19学級、特別支援3学級、児童658名が、シンボルツリーであるくすの木に見守られて、学校生活を送っています。校舎の4階より高くなつたくすの木は、枝を広げて木陰を作り、子どもたちに涼しさと爽やかさを届けてくれています。



▲町田市銘木百選のくすの木

本校の教育目標は、「よく考えくふうする子」「思いやりのある子」「つよい心と体をもつ子」です。また、めざす子ども像の一つに「自分で考え、見通しを持って主体的に行動できる子」を掲げています。これらの実現に向けて、本年度は、国語科の「読むこと」の学習を中心に、校内の授業研究に取り組んでいます。

特色ある教育活動として、カイコの飼育・稲作栽培・サマースクールなど



▲地域の田んぼを借りて稲作体験をする5年生

の体験活動があります。これらの取り組みは、いずれも地域の方々にご協力をいただきながら進めています。これからも、「忠生っ子」がふるさと忠生の担い手となれることを願いながら、学校・家庭・地域が共に子どもを育てる活動の充実を図ってまいります。



▲サマースクールでの生け花教室

真光寺中学校の教育

～生徒にとって生きがいと誇りのもてる学校～

「おはようございます」「こんにちは」休み時間や放課後に聞こえてくる生徒たちの声です。また、行事での「礼」がとても丁寧で、演壇に立たれた方が、生徒たちが体を起こすまでの間の長さに驚かれることもしばしばあります。「あいさつの真中」と言われる学校にしようと、生徒や教職員が意識して受け継いでいこうとしている伝統です。

その一方で、自然に受け継がれている伝統として、先輩が後輩の手本となり、面倒をよく見るということが挙げられます。生徒の95%以上は鶴川第四小学校の卒業生であるという背景から、生徒たちの間に人間関係ができていくことが要因の一つです。



▲大ムカデ競走(1・2・3年生男女混合でチームを編成)

2年間、その姿を見続けた後輩たちは、3年生になると自然とそのよいところを引き継ぎ、卒業式の日まで先輩として頑張ります。

このような伝統に加え、生徒一人一人が築30年を超える校舎を大切にしながら学校生活を送り、様々な場で生きがいを見つけ、達成感を味わうことで真光寺中学校生としての誇りを育てています。



▲鶴川第四小学校6年生を招いての部活動体験



▲合唱祭